

沖縄県振興審議会第3回観光・交流産業部会

日時：平成29年3月15日(火)10:00~12:00

場所：県庁6階第2特別会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 沖縄21世紀ビジョン基本計画改定(案)の意見に対する県の対応等について

事務局説明 資料7, 8, 新旧対照表MICE関連改定箇所抜粋を使用

(2) 審議

○文化と産業化について、伝統文化という文化が持っているアンタッチャブルなところをどうやって産業化していくのか、バランスをとっていくのが問われていく。

長い時間をかけて、多くの人の汗によってつくられた大切な文化を私たちはお預かりをして、実際に今文化に携わっている若い担い手たちが夢や希望を持って、産業化したときに循環されて、豊かな沖縄文化がさらに次の世代に継続的につなげていく、発展していくというところにつながるようなものになるとありがたい。

○「スポーツ・ツーリズム」の「・」を取ってほしい。

あと「スポーツMICE」という単語を入れていただくということを御検討いただければと思う。

○沖縄の空手界が県とどのような形で協働していくか、今回そういうことが盛り込まれているので、これでよろしいかと思う。

○MICEについて「大型MICE施設を建設・整備するとともに」と、「建設」という言葉を入れたらどうか。

○沖縄の芸能環境について、沖縄文化の品格を損ねないように、丁寧な字幕の原稿などを仕上げなければいけない。

あと、舞台解説書とか演目解説書とかも丁寧に仕上げる必要がある。

○文化財保持者の保持者制度について、現在空手界の中で持っている問題意識と行政の取

り組みが整合性を持って発展的に取り組まれるように努めてまいりたい。

空手会館が3月4日にオープンしまして、予想と期待を上回るものができているというふうに考えている。これからさらに空手界が大きく胎動していくような取り組みになっていく。今、一言で申せばわくわくどきどきといったような表現が一番ぴったりするんじゃないかと思う。

○離島は、観光業だけではなく、第一次産業から全ての産業におきまして人材が確保できない深刻な現状にある。民間の努力だけではもうどうしようもない現状があるので、県からの御支援をいただければと思う。

あと災害時について、竹富町の場合、役場が現在石垣島にあり、医療機関もなく、消防機関もないような現状であるので、観光客や住民の方々がどこに頼ったらいいのか、また情報がどのように発信できればいいのか。そういった危機的状況ではわからないのではないかとということで、案内所の整備促進を図るという記載をお願いした。

どこかに何かしら明確に文言など、支援などを検討していただければと思う。

○英語留学の受け入れシステムの整備に関し、今回の後期見直しの目玉はやはりMICEだろう。ハードとソフトも一体、英語も一体という中で、英語留学の拠点として沖縄を置いた場合に、学ぶ方が沖縄って英語を使った仕事もできるなど、MICEで沖縄ってすごく使える場所だなど思っていたことができ。

行政施策としての調査・検討を盛り込んでいただけないかと思う。

○世界のウチナーンチュに関する会館・資料館の設立の件についての提案をさせていただいた。県からの御対応も「検討している状況であり」というような回答であれば、書いてもいいのではないかと。検討というふうにこちらも譲歩したので、検討も何もなければ、今後5年間何も起こらないと思うので、よろしく願いしたい。

○「スポーツアイランド沖縄」の追記、それが明記されたということによって、スポーツアイランド沖縄に向けてのイメージづくりができていくのかなというふうに思う。

それを受けて、JOCのほうは今ムーブメント事業として、オリンピック教室などいろんな活動を行っている。そういう文言も、またJOCのオリンピックムーブイベントを推

進するというような明記もできたらいいのかと思う。

○一見して「スポーツアイランド沖縄」というのが目につくということで、そこにいろんな方々が目を通してくれるというふうな結果が出たのかなと思う。

そういう中でも、この残り5年の間に東京オリンピックがあるし、スポーツをいろんな方々に知ってもらいたい、どういう活動をしているのかというのを理解していただきたいというふうなものも含めて、いい対応をしていただいた。

○県による今後の実施計画づくりに大いに期待している。

○期待していることとして、空手会館、世界のウチナーンチュの日の制定、MICEの動き、2020年にはオリンピック等、新しいことがたくさん起きた1年なのかなということを感じている。

だからこそ、基本計画ではなくて実施計画のほうがまた重要になってくるのかなと思う。

○夢の殿堂、空手の殿堂である空手会館が完成したということで、世界の空手家が意欲を高めていくんじゃないかなと非常にワクワクしている。

私たちは、次の後継者をぜひ制定し、沖縄の伝統空手を世界の皆さんに見せることができるように努力しなければいけない。

それから、空手会館を中心とした国際的な指導者は、英語、語学の堪能な方の育成、これも大きな責務ということで、教育委員会あるいは文化観光スポーツ部の皆さんとタイアップしながら進めていきたい。

○この21世紀ビジョンというのは、まず台本を書き、それを3年、5年、7年、10年というこの節目の中で、どんどん書きかえていくことができる台本である、ということを見ると、今後明るい沖縄をつくっていくんじゃないかという期待感がすごく大きくある。

ぜひ、県の皆さんも頭をやわらかくして、どんどん専門的な意見を取り入れて、沖縄ならではのエッジの効いた、取組ができたらいと思う。

○これまでの議論を踏まえまして、正副部会長会議に提出する改正案については、原案のとおりとしてよろしいかどうか。加えて、文章の微調整、御意見、御提言もありましたので、もろもろ含めて部会長と、それから事務局に一任していただきたいと考えておりますが、この両方よろしいでしょうか。

よろしければ、賛同の拍手をよろしくお願いします。

(異議なし 拍手)

3. 事務連絡

4. 閉会

以上